



2015年4月1日発行

セブンスデー・アドベンチスト石川教会付属 石川三育保育園

今から49年程前の4月、男2人、女5人の7人兄妹の2番目の男の子が、ピカピカのランドセルと新調した靴を身につけ、夢と希望を抱いて小学校へ入学しました。しかし、彼の思いとは裏腹に、入学早々、次のように失望、落胆することが続け様に起きてしまうのです。ある時は、新調した靴の片方を旧式のトイレに落としてしまい、不自由さと恥ずかし思いで家に帰る羽目になってしまいます。また、ある時は、トイレに行くのを我慢してしまい授業中にお漏らしをしてしまいました。さらに、ある時は、学校でバス賃を無くしてしまい、3,5キロの道のりを歩いて家に帰ったこともありました。

保護者のみなさま、その後、このような失敗をした彼は、どのような人生を歩んで行ったと思われるか？ もちろん、彼は失敗をした時、「これで僕の人生は終わってしまった」と思う程に、落ち込んでしまいますが、両親の支えによって元気づけられ、もう二度と同じ失敗をしなくなりました。その後、小学校4年生の時に、教室でクラスの大半の男の子と一緒に遊んでしまい大切な備品を壊すという失敗をした以外、失敗を起こすことなく小学校、中学校を卒業して行きました。高校の時には、父親の死を契機に物思いにふけり、真剣に人生の意味を考えるようになり、キリスト教会へ導かれて行きます。高校を卒業後大学入学試験失敗し、原因不明の骨の病気で苦しんでしまいますが、病気も克服し自分で働いて大学を卒業しました。そして、病気を克服した時に出会った先生の影響を受け働きながら鍼灸師・按摩指圧師の学校を卒業し、以来十数年色々な病院や高齢者施設でリハビリの働きを続けて行きました。そして、現在は、キリスト教の教会の牧師と保育園の園長の働きをしています。

この彼とは、私のことです。私の拙い人生経験から、新しく何かをスタートされようとする方々へエールを贈りたいと思い書かせて頂きました。「失敗」は、普通にできるはずのことができなかった時や、能力が足りなかったためにできなかった時に言う言葉だそうです。いずれにしても、私はその失敗から人生の意味を悟らされたように気がします。今では、失敗は人生にとって、無くてはならないものであると確信して言えます。何故なら、「失敗」することによって、初めて自分が弱い存在なんだということが知ることができるからです。それは、また、自分だけでなく人はみんな弱い存在なんだと気づかせくれます。ですから、私たちは、弱さを克服しようと努力するのです。そして、本当の弱さを知っているが故に、みんなの弱さを克服するように助けようとするのです。本当の「強さ」とは、自分の弱さを自覚し、みんなの弱さを助ける力のことをいうのではないのでしょうか。わたしたちは、失敗からこの「強さ」を身につけるように導かれているのですね。

私たち三育保育園では、聖書を土台とした三育教育を通して、このような「強さ」を身につけることの大切さを子供たちに伝えていきます。新しい年度も、保護者のみなさまのご支援・ご協力をいただき、みなさまのお子様の成長に携わらせていく所存です。宜しくお願い致します。

園長 糸数正義

聖書のみ言葉

「…なぜなら、わたしが弱い時にこそ、私は強いからである。」

コリント第二の手紙 12 : 10